

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 市 長	平成26年 7月14日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1-1	報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 大日本スクリーン製造株式会社 取締役社長 垣内 永次

京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。	
環境マネジメントシステムの名称	環境安全健康マニュアル (ISO14001:2004, ISO50001)
適用範囲	大日本スクリーン製造㈱の本社地区事業所、洛西事業所、久御山事業所ほか5事業所及び16グループ会社
導入年月日	ISO14001:1997年2月26日、ISO50001:2010年7月16日
認証番号	ISO14001:EMS549649、ISO5000:ENMS562552
基本方針	<p>1 事業を通じて新しい環境社会へ貢献します。スクリーングループは、製品・活動・サービスを通じて、次の目的達成に努めます。</p> <p>a. 環境負荷の低減に貢献する技術・製品の開発展開、b. 職場の健康と安全の推進、c. 工場とオフィスの環境保全と省エネルギー、d. 環境安全体制の強化</p> <p>2 法規制を順守し、ステークホルダーの期待に応えます。危険源を特定すると共に、環境とエネルギー側面を掌握し、法規制およびステークホルダーとの合意事項を順守します。また、自主基準を定めて、負傷及び疾病、環境汚染を予防します。</p> <p>3 EHSマネジメントシステムを構築・維持し、定期的に見直します。</p> <p>4 具体的な目標を設定します。</p> <p>5 事業特性や組織の役割に応じて目標を設定し、継続的に改善します。</p> <p>6 教育や広報を通じて、活動を全ての従業員へ周知します。</p> <p>7 この方針は社内外に公表します。</p>
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<p>2013年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エネルギー起因のCO2の生産高原単位と使用面積高原単位を2009年度比4%以上削減</li> <li>2. 社外排出物の生産高原単位を2009年度比4%以上削減</li> <li>3. 社外排出物のマテリアルリサイクル率を90%以上</li> <li>4. グリーンプロダクツ（環境適合化製品）の売上高占有率を70%以上</li> <li>5. 使用制限物質の代替化</li> </ol>
目標を達成するための取組の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設備更新、節電対策（照明の間引き、空調運転昼休み停止、エレベータの停止、）</li> <li>2. 3. 廃棄物の発生抑制、リサイクル業者の新規開拓</li> <li>4. 製品の環境性能評価、DfEの実施</li> <li>5. 化学物質調査システムの導入、含有調査の実</li> </ol>
目標を達成するための取組の進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設備更新、節電対策（照明の間引き、空調運転昼休み停止、エレベータの停止、）</li> <li>2. 3. 廃棄物の発生抑制、リサイクル業者の新規開拓</li> <li>4. 製品の環境性能評価、DfEの実施</li> <li>5. 化学物質調査システムの導入、含有調査の実施</li> </ol>
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電力のCO2換算係数の増加で目標は達成できなかった</li> <li>2. 社外排出物は、研究開発の増加により廃液が増加したため目標は達成できなかった</li> <li>3. 廃液の増加により目標は達成できなかった</li> <li>4. 目標達成</li> <li>5. 継続取組中</li> </ol>
事業活動に係る法令の遵守の状況	法令違反はありませんでした。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	毎年1月にマネジメントレビューを実施しています。2013年度のマネジメントレビューでは、2014年度BCMSの認証取得に向けた取組等の実施の指示があり、マネジメントレビュー以降取組んでいます。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。